

「質」で勝負の自由化対策 時代にあった作物づくりを

ところで、四月一日から牛肉とオレンジの自由化が本格的に始まりました。初年度は比較的影響が少ないかもしれませんが、

石原 いやあ、少なくともいいですね。一月の末から価格が下がっているからですね。

今から先は量じゃない。肉質でいかなければ太刀打ちできないでしょうね。私のところは、七割程度が中物以上なのでカバーできていますが、並物が多い人なんか、厳しいでしょう。赤字になっている人もいます。だから、

肉質の向上を図らなければやっていけない時代なんです。

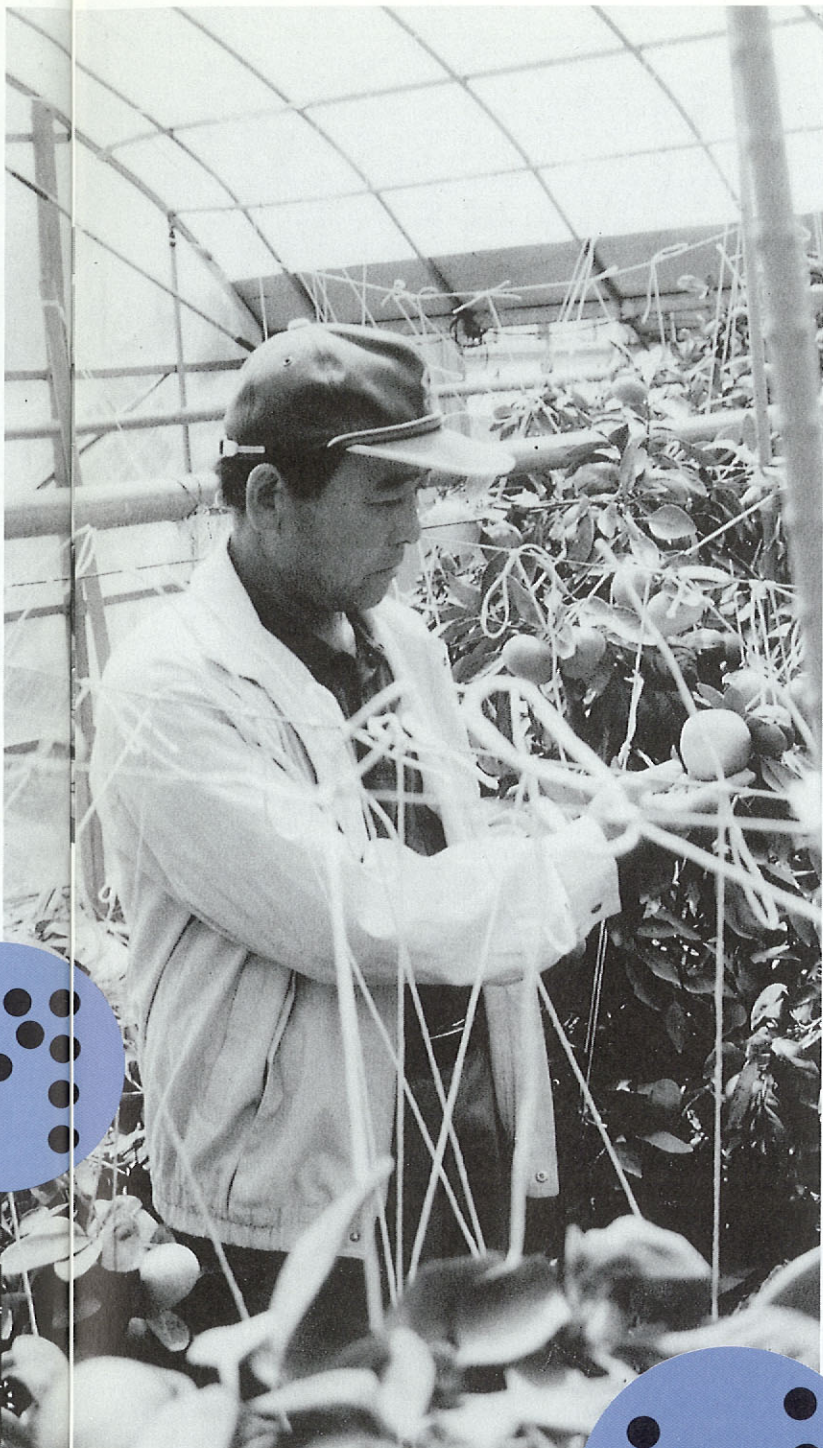
知事 宮本さんも同じ事を言っておられるわけですね。おいしい果物を作らねばならないと。ミカンの方はどうですか。

宮本 そうですね。今年は幸い、カリフォルニアが寒波でやられたんですが、自由化には相当反対がありました。まず、敵を知ることだとアメリカへ行きましたが、とても力では太刀打ちできないじゃあ技しかないと考え、施設化に取り組んでおります。つまり、量をとる今までのやり方から高品質を目指すも

のへ一からやり直そうと。

幸い、県の方で傾斜地型果樹園整備という事業がございまして、これが農家の意見を十分入れた補助事業ということで非常に皆喜んでおります。この事業を続けて頂いて、時代に合ったミカン作りを一日も早くつくり上げていこうと思っております。

知事 宮本さんから楽しくやろうというお話も出ましたが、木之内さんもそうで



好きだから、やりがいがあるから楽しい 経営的にもおもしろい発展性が

木之内 農業をやっているキツサというのは感じたことがないですね。どんな仕事をしても楽に達成できるものではないし。本当に自分が好きなことができてるのは最大の幸せだと思います。

他の業種で異業種間交流が行われているように、農業にもいろんなものを取り入れていけば、経営的にもおもしろい発展性があるのではと考えています。そういうことを、まず農業をしている自分たちが気付かなければ。そして、将来に向けての自分なりの展望や夢を持ってやれば、若い人たちも十分に農業に魅力を感じてくるんじゃないかと思えます。実際、うちのスタッフの新人二人も農業に魅力を感じて、全然基盤もないところからスタートしていますし。だから、県の農業アドベンチャー計画には非常に期待しています。本人の主体性を生かせる事業の進め方を願っています。

また、農業についての宣伝が足りないんじゃないかと思えます。農業者側も気をつけるべきだし、行政サイドからも農業の良さを本当の意味でアピールできたら、見方が変わるんじゃないかと思うんです。

知事 石原さんはどうですか。
石原 大変とは思わんですね。やりがいのある仕事ですよ。
生後十日ぐらいの赤ちゃん牛から育

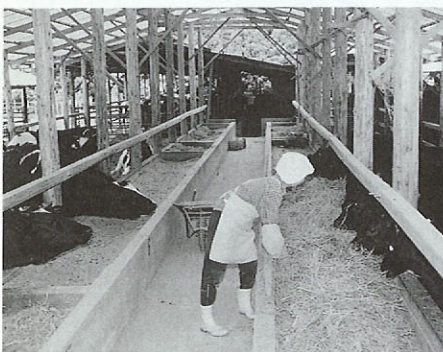
ていますから、本当に我が子を育てるような気持ちで愛情持ってやるんです。それだけ神経細やかに接しないと牛もこたえてくれないうし。今、私が行けば喜んでモーモー言ってます。外に出てしまった牛に「おいで」と言うて走ってきてキュッと止まる時ほどかわいと思うことはないですね。そういう場面を見た人は「ワー」と言いなさるんですよ。

それに何より、好きなだんだんと一緒に仕事ができるのが一番ですよ。(笑い)

木之内 夫婦もそうでしょうけど、親子も一緒というのがいいですね。うちの子供は、いつもハウスと一緒に歩いてうろうろしてますけど、子供にとってもいいんじゃないかと思うんです。

ただ心配なのは、自分たちの村に五百戸ほど農家があるんですが、二十代三十代の専業の後継者が二十五、六人しかいないんです。このようなところで今後産業としての農業が、地域ぐるみでの農業が保たていかれるのか。知事はどういった考えをお持ちですか。

※農業アドベンチャー計画
地域農業の活性化と農業の担い手確保・育成を図るため、農業以外からの農業への参入を促進するとともに、その経営安定と定着化を図る県の事業。



福島知事

対談

「農業が好き」

生産者が、消費者が、育て楽しむ農業に

